# 品野地区・中、下品野

品野盆地の中央に位置する中、下品野は、古代から地域の中心となっており、江戸時代には信州飯田街道沿いの町場として栄えていました。下品野では江戸時代を通じて窯業生産が行われていました。

## 神明社石燈籠

神明社は、下品野村の氏神です。社伝によれば、後亀山天皇の御代（1383 ～ 92）に信州の豪族村上理之介の後裔で品野城主となった村上勘助の勧請による創建とされます。境内本殿・渡殿の左脇にある花崗岩製の石燈籠は、傘・火袋・中台が六角柱、竿が円柱形で装飾の少ない形となっています。竿の銘文に「奉壽進御寶前 明暦四年戊戌林鐘吉日 下品野村村上長次郎寄進」と刻まれ、万治元年（1658）に建造されたこの石燈籠は市内最古のものです。石燈籠を寄進した村上長次郎は、江戸時代に品野の窯業を再興した加藤新右衛門家の系譜に連なる人物です。

## 岩屋堂

岩屋堂は奇岩の名勝として古くから知られ、幕末の状況を記載した『尾張名所図会』中に「岩屋堂」の図が掲げられ、「中品野村、半田川筋の支流に傍て一巨巌あり、…其岩のさま山の麓より川ぞいの低き方へ倒れかかりたるが如し。…其あわひ自からうつろにして、人快く出入す。中に薬師仏を安置したるが故に岩屋堂の称起こる」とあります。岩屋堂を奥の院と位置付ける浄源寺などとともに奈良時代の僧行基による開山伝説があり、明治時代から奇岩や渓谷美で避暑地として公園整備が図られ、現在も秋の紅葉ライトアップなど行楽地として知られています。

## 浄源寺

洞谷山浄源寺。曹洞宗。由緒としては、聖武天皇の時代に浄源寺の飛境内地（現在の岩屋堂地内）に行基が千手観音、白衣観音、薬師如来の三体を彫刻し石室に安置したことに始まるとされます。この時に野鳥が木の実をくわえて仏前に供えたことから鳥原の地名ができたという伝説も残っています。享徳3年（1454）に雲興寺二代天先祖命によって白衣観世音菩薩（行基作）を本尊としてこれまで天台宗を改宗して浄源寺を建立しました。寺宝としては御朱印安藤対馬守一通、天神名号一福などがあります。

## 全宝寺・阿弥陀峯城跡

全宝寺は、当初は天台宗に属し、天平 6 年（734）創建とも伝えられています。享禄 2 年（1529）に三河の全久院の僧を招いて開山となし、阿弥陀如来を本尊としましたが、永禄 3 年（1560）に兵火によって堂宇を焼失したと伝えられています。文禄年中（1592 ～ 96）に雲興寺 14 世居雲宗準が堂宇を再興し中興開山となり曹洞宗の寺となりました。寛政 4 年（1792）等の村絵図には、「地蔵」と書き込まれています。また、文明 14 年（1482）の品野の永井民部（長江利景）と今村の松原広長との合戦の折には、品野方の前線基地としてこの地に阿弥陀峯城を築いたとされます。

▲全宝寺祇園堂

## 品野祇園祭の神武天皇像及び従者像（市指定文化財 / 有形民俗）

下品野では、毎年 7 月第 3 土曜日の夜半に 1 台の山車を中心として神輿や踊りの隊列が中心部を巡行する「品野祇園祭」が開催されます。祭り当日に全宝寺祇園堂に安置されている神武天皇像 1 体とその従者 2 体を山車上層に献納（移動）し踊りと山車曳を行います。この祭礼は、江戸末期から明治初期の頃の間に始まったと考えられます。山車上層の中央に据えられる神武天皇像は、左右の従者像とともに、両腕を上下に動かすことのできる素朴なからくり人形となっていますが、現在は、からくり操作は行われていません。神武天皇像については、昭和 5 ～ 14（1930 ～ 39）年頃の山車にはみられないことから、昭和 15 年（1940）前後から山車上層に据えられるようになったものと考えられます。

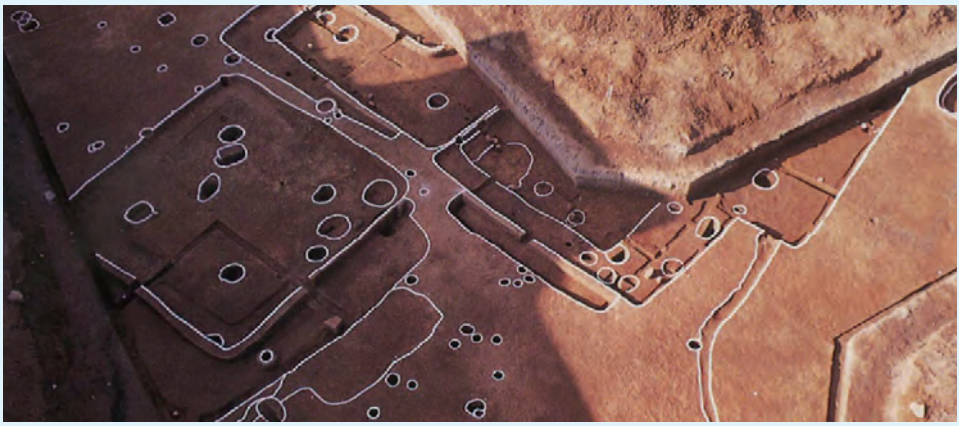
## 津島社

下品野中島（現在の品野町 4 丁目）に小規模な朱塗りの社が 3 棟みられます。その中央の社が津島社です。津島社は、天王社または天王さんともいいますが、下品野をはじめ瀬戸市域北東部では祇園社または祇園さんとも呼んでいます。周辺の村と同様、津島市の津島牛頭天王（津島神社）の分霊を祀っています。品野祇園祭の際には、前日までに津島市の津島神社に代参して受けてきた御札が納められ、祭りの際に津島社の前で参加者が祈祷を受けます。なお、津島社南に建てられている秋葉山常夜燈は、寛政 7 年（1795）の銘があり、市内で確認される最古の常夜燈です。

## 五丁目観音堂

江戸時代後期に信州飯田街道沿いには、地蔵菩薩や馬頭観音などの石造物が多くみられたようですが、当時街道の要衝であった東屋玉屋の茶店の傍らに明治 15 年（1882）に合祀されたのが、この観音堂の始まりといわれています（平成 6 年（1994）観音堂再建寄付者芳名板より）。堂の奥には地蔵菩薩・行者・儒者像が刻まれている明治 21 年（1888）造の「木之本地蔵」をはじめ、11 体の石造物が 2 列に並んでいます。全て表面には鮮やかな彩色が施されています。品野祇園祭の山車は、現存する南部の 1 台のみならず、明治時代には東部等のシマがもつ山車が他に 2 台あったと伝えられており、それらが、この観音堂の前で集結したといいます。

## 品野西遺跡



品野盆地の西側、水野川とその支流、後田川周辺の低湿地および位段丘上に立地します。上位段丘には古代住居跡と中世墓群、下位段丘には縄文草創期石器群と古代住居跡、低湿地では古代住居跡と近世畑跡が確認されています。縄文草創期（約 15,000 ～ 12,000 年前）の石器集中地点では有舌尖頭器や、木葉形尖頭器、斧形石器などが出土しており、貴重な石器群となっています。古代の集落としては、7 世紀中葉の瓦が出土しており、古代寺院が存在した可能性を示しています。また 8 世紀から 9 世紀初頭にかけて、建物跡には大型竪穴建物跡や四面に庇をもつ掘建柱建物群が確認され、古代でも中心的な役割をもった集落であったと考えられています。

## 品野地区・中、下品野地図

❶神明社石燈籠（P107）
❷岩屋堂（P108）
❸浄源寺（P109）
❹全宝寺・阿弥陀峯城跡（P110）
❺品野祇園祭の神武天皇像及び従者像（P111）
❻津島社（P112）
❼五丁目観音堂（P112）
❽品野西遺跡（P113）